

## 不登校児童生徒への対応

宇都宮市では、現在、不登校の増加と低年齢化の傾向が見られ、不登校減少に向けた取組が、喫緊の課題となっています。不登校の増加は全国的な傾向であり、増えている原因には、社会的な規範意識の低下や情報化社会における人間関係の希薄化、保護者の考え方の変化など、子どもを取り巻く社会情勢の変化も影響しています。

各学校においては、不登校を生まないための「未然防止（健全育成）」の取組、不登校になりそうな子どもに対する「初期対応（早期発見・早期対応）」の取組がなされ、また、不登校傾向・不登校状態にある子どもに対しても、各担任・教職員・学校組織により様々な支援がなされています。

不登校傾向や不登校状態にある子どもは、それぞれ子どもの状態が異なり、個別に目を向けて対応していく必要があります。これらの子どもに対し学校はどのような取組をしていくとよいのかについて、今後、シリーズでお伝えしてまいります。

### 不登校の要因・背景を見極める

不登校の要因・背景は様々であり、複雑に絡み合っています。

学校が友人関係の問題に対応し関係が修復されても不安が残っている場合や、親子関係の問題による情緒不安定が解消されずに休みが継続してしまう場合、また、長期欠席等により学習内容が分からなくなり、そのために登校ができない場合もあります。このように、不登校のきっかけと思われる要因を取り除いても不登校が解消されなかったり、新たな要因が加わり不登校が継続してしまったりします。

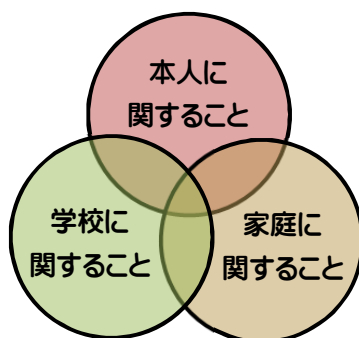
また、先生の励ましの言葉が、支えになる子もいれば、「辛い」「会いたくない」と感じてしまう子がいるように、個人の性格や考え方、それまでの人間関係等様々な要因が影響してくることもあります。

不登校の要因・背景を的確にとらえることが、効果的な支援につながります。



複数の視点で多角的に現在の状況・過去の情報を収集する。

- ・担任から
- ・それ以外の教職員から
- ・SCから
- ・保護者から
- ・入学前に通っていた幼稚園・保育所・小学校から
- ・他機関から



・SCを積極的に活用し、事例検討会を実施することで、情報を共有するとともに、教職員の不登校の要因背景を見極める力の向上を図りましょう。

・要因・背景を理解する際、教師や保護者などの見方・とらえ方に偏りがいないか注意しましょう。

・「憶測」や「推測」にとらわれず事実を整理しましょう。

## 不登校の要因・背景理解の視点

### 本人に関すること

- ・発達課題……………心の発達・社会性の発達が、どの段階にあるのか
- ・性格……………物事のとらえ方や考え方、耐性や感受性
- ・健康状態……………食欲、睡眠時間(短い・長すぎる)、頭痛・腹痛などの身体的症状
- ・精神状態……………安定しているのか。情緒不安定、不安感、無気力、緊張感、気分の波
- ・病気・病歴……………過去の病気や現在の病気(症状)・服薬、通院歴や主治医の治療方針
- ・成育歴……………乳幼児・幼児期・学齢期の育ちや本人に影響を与えたエピソードなど
- ・生活リズム……………食事・起床・睡眠などの時刻、平日・休日における生活の違い
- ・発達障がい……………発達の特性や困難さ(学びにくさ・コミュニケーションの苦手さなど)

### 学校に関すること

- ・友人との関係……………トラブルは解消済みか、本人のコミュニケーション能力
- ・教職員との関係……………信頼関係、教職員の言葉・態度・声・年齢・性別などの影響
- ・学級集団・部活等の状況……………集団生活での居心地、活動への意欲、人間関係
- ・学業……………学習の状態、定着度、教科による偏り、苦手意識
- ・進学・進路……………進路希望、進路に関する不安、保護者の理解
- ・学校生活の変化……………進学・転校・学級替え・担任替え・別室利用の方法、人間関係の変化

### 家庭に関すること

- ・親子関係……………母子・父子関係、家庭内暴力、虐待、過保護・過干渉、ネグレクト、放任
- ・家庭内不和……………親の不仲、別居、離婚、兄弟・祖父母・親戚との関係
- ・家庭内の急激な変化……………転居・親の転勤・単身赴任、兄弟の誕生、家族との死別、親の再婚
- ・経済状況……………親の低収入や失業、アルコール依存やギャンブル依存
- ・家族の健康状態……………家族の病気・入院・介護、精神疾患
- ・親の価値観……………不登校をどのようにとらえ、子どもに接しているか(登校刺激の有無)

※ 保護者との関係を築き、連携体制を構築することで、本人の状態や家庭環境等の状況を知ることができます。

※ 不登校の要因・背景を的確に見極め、具体的な支援につなげていきましょう。

※ 上記の項目は、一つの例にすぎません。その他の視点や本人の長所や特技・興味関心、学校・家庭以外の生活を把握することも、今後の具体的な支援を検討する際に貴重な情報となります。

要因・背景を理解する ⇒具体的な支援策につなぐ

次回は、不登校児童生徒への具体的な支援策の検討に関して御紹介します。